

広報大洲

きらめき創造 大洲市
—みどめあい ささえあう—

肥川流域都市—

大洲



2012
No.85

2

福島と愛媛の架け橋
こどもの絆プロジェクト
～未来への絆～



愛媛から始動

こどもの絆プロジェクト ～未来への絆～



ストーンアート体験



感謝の思いが込められたアート作品

昨年の東日本大震災で被災し、放射能のために外で遊べない福島の子どもたちを愛媛県に招き、地元の子どもたちと一緒に体験活動を行ってリフレッシュしてもらうことを目的に、「こどもの絆プロジェクト」が開催されました。

このプロジェクトを企画したのは、愛媛県公民館連合会主事部会長の青野信久さん。愛媛県内の公民館主事有志のみなさんと愛媛大学ボランティアスタッフなど、多くの賛同者の協力の下、昨年の12月25日(日)に

愛媛県入りした福島の子どもたち20人は、新居浜市、今治市などを経て、1月3日(火)に大洲入りしました。

全行程12泊13日の愛媛県滞在の内、大洲市では1月3日(火)～6日(金)の4日間の日程で、福島と大洲の子どもたちによる交流が行われました。

福島と愛媛、お互いの子どもたちの「絆」について、企画者の青野さんや子どもたちに話を伺いました。

絆はここに。

このプロジェクトを企画したのは、東京電力福島第一原発事故の影響で、屋外で遊べない福島の子どもたちのために、何かできないかと思ったことがきっかけでした。

福島県の提携団体である「ふくしまキッズ」と協議・連携を重ねた結果、実現できたのが今回のプロジェクトです。冬季林間学校というイメージで企画をしました。

「こども」の絆プロジェクトは、未だ来への絆をタイトルとしたこの企画は、県内の公民館主催が連携する初の試みで、福島の小学校1年生から6年生までの児童20人



企画者 青野 信久さん

「日本はひとつ。絆はここに。」

と保護者など3人が参加してくれました。

大洲市からは喜多・平・菅田小学校から参加があり、小学校1年生から6年生までの児童8人が交流を深めました。

愛媛県での滞在中には、継続的に体験活動などの交流を行い、福島と愛媛の子どもたちに「癒し」の時間を提供し、子どもたち同士、強い「絆」を培ってもらえたと思います。

また、数年後には愛媛の子どもたちを福島県に連れて行き、震災や原発事故の恐ろしさを学んでもらうとともに、福島の人たちがたくましく復興していく姿を、その目に焼きつけてほしいと思っています。

日本はひとつです。絆はここに
あります。これから先、どんなことがあっても、今回のプロジェクトで交流した子どもたちやスタッフが、お互いに助け合う心を持ち続けてもらえることを、切に願っています。



好きなものを自由に描くストーンアート



読み聞かせを体験

1月3日(火)に大洲入りした一行は、国立大洲青少年交流の家を拠点に、西予市・大洲市で体験活



いもたき作りに挑戦

動を行いました。1月4日(水)は、早朝から降り積もった雪により、大きく日程の変更を余儀なくされましたが、西予市でのZー1(ぞうきんがけ)体験や読み聞かせなどを行いました。5日(木)、早朝の富士山ハイキングは、あいにくの天候により中止となりましたが、肱川の石に詩や俳句、イラストなどを思い思いに描くストーンアートや肱北公民館若宮分館でのいもたき作り、その後の交流会などは予定どおり行われ、子どもたちの笑顔は絶えることなく、さまざまな体験活動を通して交流を深め合っていました。

未来への約束

こどもの絆プロジェクトには、友達からの勧めで参加しました。とてもドキドキして楽しみにしていたのですが、最初は福島の子どもたちと仲良くなれるのか、とても不安でした。自由時間にバドミントンやフラフープなどを一緒にして、すぐに仲良くなれたのでよかったです。

自由時間の前に体験したストーリーアートで、私は小石に「魚」と「けし」の絵を描きました。出来上がったストーリーアートは、いろいろな絵柄があって、「おにぎり」や「ドット柄の猫」がかわいかったです。特に「愛媛のみなさん ありがとうございます！」の言葉には、とても感動しました。

交流会のいもたき作りでは、5班に分かれて調理を行いました。私の班は小さい子が多かったけれど、みんなで役割分担をして楽し



菅田小学校 6年
中川 茉奈美 さん



自由時間に打ち解ける両県の子どもたち

く調理をすることができました。福島の子どもたちは、自分から積極的に取り組んでいたの、すごいなと思いました。

夕食は、いもたき、じゃこカツ、鮎の甘露煮、トマト、ご飯などで、とてもおいしかったです。私も大好きな大洲名物のいもたきを、福島の子どもたちが「おいしい」と言って食べてくれたのがうれしかったです。

福島は遠くて、どんな所かよく知らないけど、ぜひ行ってみたいと思います。また、このプロジェクトでできた友達と、これからも交流を続けていけたらいいなと思います。

私は、いつも一緒に遊んでいる学校の友達と誘い合って、今回のこどもの絆プロジェクトの交流会に参加しました。

私はこのプロジェクトに参加するまで、福島県のことを何も知りませんでした。でも、福島の子どもたちが来ると分かってから、福島県がどういところなのか興味が湧いてきました。

自由時間には、福島の子どもたちと一緒にバドミントンをして、元気いっぱい動き回りました。また、ストーリーアートでは魚をモチーフに描いたものを、みんなに褒めてもらったので、とてもうれしかったです。すぐに友達もできたので、楽しく遊べることができました。

夕食では、みんなと一緒にいもたきを作りました。私はいもたきの中では、いもが一番おいしかった



喜多小学校 3年
吉岡 奈美 さん



楽しくにぎやかなお食事会

たです。食事中、もっと話したい気持ちはあったけど、緊張してあまり福島の子どもたちと話せなかったのが残念でした。

今回のようなプロジェクトが、今後も続いてほしいと思います。自分がまだ知らない地域の子どもたちと、もっと触れ合うことができたら楽しいと思います。そして、大洲のことも、もっと知ってほしいです。

また福島の子どもたちに会いたいので、愛媛県に来てもらいたいし、私が大きくなったら福島県にも遊びに行ってみたいです。

楽しい交流会に参加することができて、本当によかったです。

再会を夢見て

私がイメージしていた愛媛県は、みかんが有名という印象が強かったです。福島県にもみかんはあるけど、実際に大三島でみかん狩りをしたときには、愛媛のみかんの大きさにびっくりしました。甘くて大きいみかんは、とてもおいしくて、また食べたいと思いました。最初は、愛媛の子どもたちと友達になれるかなと思っていただけ、初めて出会った時からすぐに仲良くなれたので、ほっとしました。

今回のプロジェクトで一番思い出に残っているのは、ぞうきんがけの記録を競うZーリーグランプリや石に絵を描くストーンアートです。ストーンアートでは、山の形をした石に白い絵の具を塗って、富士山をイメージしたものを作りました。



いもたきを初体験

交流会最後の夜には、大洲の名物いもたきを作りました。他にも

いろいろな物を作ったけど、いもたきが一番おいしかったです。

親とは長く会えない時間が続いたけど、そのことを忘れるくらい楽しい時間を過ごすことができました。福島での生活で、私は思いっきり笑うことができませんでした。愛媛県に来て、愛媛の人たちと接して、私は自分がこんなに笑えるんだと思いました。愛媛のみんなは、優しくて福島のことも心配してくれて、本当にうれしかったです。遊べた時間は短かったけど、ちゃんと絆ができたと思います。

また愛媛県を訪れて、みんなと遊べたらいいなと思います。



コンサートでは、みんなで熱唱



福島県郡山市立小原小学校
5年 五十嵐 千恵 さん

こどもの絆プロジェクトには、友達とそのお母さんから、「一緒に愛媛県に行こう」と誘われて参加しました。

愛媛県は、「みかん」というイメージを持っていました。大三島では、みかん狩りをする事ができて、とても楽しかったです。また、実際に愛媛のみかんを食べてみると、すごくおいしかったです。

愛媛の人は、僕たちを温かく迎えてくれる優しい人ばかりで、うれしかったです。愛媛の人とサッカーをしたり、外で遊んだりすることができて、とても楽しく過ごすことができました。

ストーンアートで、僕は野球が大好きなので、「野球場」と「おにぎり」を描きました。「おにぎり」は、最初は「月」にしようと思っていましたが失敗してしまいました。ノリを描いたら、おにぎりっぽく見



福島県郡山市立柴宮小学校
5年 國分 奎佑 さん

えたので、「おにぎり」にしました。作成の途中で描く絵が変わってしまったけど、ストーンアートはおもしろいなと思いました。

交流会の食事では、初めて食べた「じゃこカツ」が、すごくおいしかったです。またいつか食べてみたいと思います。

愛媛の人たちには本当に感謝しています。僕はまた愛媛県に来たいです。また、愛媛の人たちにもぜひ、福島県に来てもらいたいと思います。そして、プロジェクトで知り合った愛媛の友達と、これからもずっと交流を持っていきたいと思っています。